

KUJI CITY

久慈市



子どもたちに誇れる 笑顔日本一のまち 久慈

白樺ゆれる 琥珀の大地 海女の国



日本一の面積を誇る白樺林。

太古のロマンを伝える悠久の大地。

豊かな自然が生み出す山海の美味と、

自然と人がともに育んできた

ふるさとのなりわい。

みんなが笑顔で、

将来への希望にあふれた

毎日が送れるように。

「ここにしかない」魅力を大切に、

「ここ」でなら実現できる」

未来に向かって久慈市は今日も、

明日への一歩を進めています。



子どもたちに誇れる 笑顔日本一のまちを目指して



Mayor of Kuji

久慈市は、琥珀と恐竜化石が約9000万年前の同じ地層から産出される世界でも貴重な太古ロマンを感じられる地域です。豊かな自然にも恵まれ、「久慈育ち琥珀サーモン」や「山形村短角牛」をはじめ、海山里の特産品は地域の宝です。環境問題にも積極的に取り組んでおり、脱炭素社会の実現を目指し、太陽光や風力など再生可能エネルギーを用いて、地域の産業振興や雇用拡大に向けて施策を進めています。

三陸沿岸道路が全線開通し、令和5年4月には道の駅「いわて北三陸」が開業。当市の魅力や情報を発信するとともに、交流人口拡大に取り組みます。

「子どもたちに誇れる笑顔日本一のまち久慈」を基本理念に、これから紹介するエネルギー対策の推進、防災体制の充実、子育て支援などの施策を展開し、さらなる市勢発展に努めてまいります。

久慈市長 遠藤 謙一

久慈市勢要覧 目次

INDEX

ごあいさつ	2
久慈市が取り組む脱炭素社会の実現	4
脱炭素の取り組み	4
洋上風力発電導入の取り組み	8
エタノール製造実証事業	9
琥珀と恐竜、ジオの眠るまち	10
琥珀と恐竜	13
久慈ジオワールド	10
ここから始まる新時代の風土記	14
三陸沿岸道路・広域道の駅	14
水産業・農業・林業	16
ロケツアーリズム	18
誰もが安心して暮らせる久慈市へ	20
防災	20
心と身体の健康 子育て支援	22
地元雇用・地域づくり	24
もっともっと久慈を知ろう	26
歴史探訪	26
久慈秋まつり	27
柔道のまち久慈	28
山形町エリア	29
ここに残る久慈体験	30
教育旅行	30
観光スポット	32
歳時記	33
久慈市地図	34



CARBON ZERO

久慈市が取り組む
脱炭素社会の実現

美しい海山里を いつまでも 久慈市が取り 組む 脱炭素社会の 実現

豊かな自然に囲まれた久慈市。
愛すべき故郷をいつまでも健やかに守り、
そこに暮らす人々が将来にわたり
いきいきと過ごしていくために、
久慈市ではさまざまな取り組みをしています。



シイタケ栽培のハウス



乾燥チップを利用した熱エネルギー輸送の取り組みをしている久慈バイオマスエネルギー株式会社

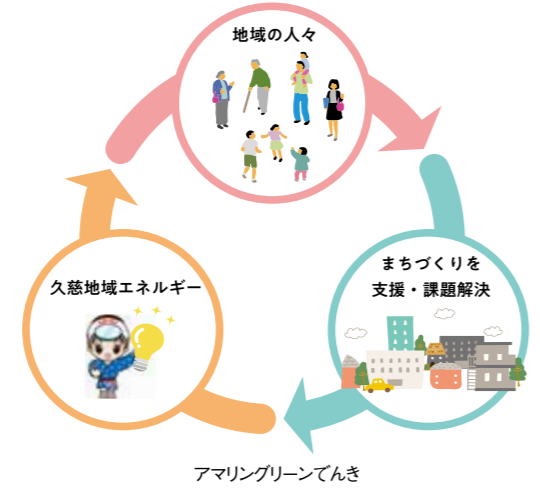


再生可能エネルギーによって得られた電力を市の施設に利用

地域や住民にも 脱炭素の メリットを還元

久慈市では再エネの拡大を通して、環境問題だけでなく地域経済の循環や雇用問題、そのほかさまざまな社会課題の同時解決を目指しており、そのメリットが地域や住民にも還元されるよう、官民が連携して検討を重ねています。

2020年4月には、滝発電所（水力発電）で発電された再生エネルギーを久慈地域エネルギー株式会社「アマリングリーンでんき」として販売開始。アンバーホールをはじめとする市の施設で利用しています。また市内にある民間会社「久慈バイオ



再生エネルギーの供給源となっている滝発電所

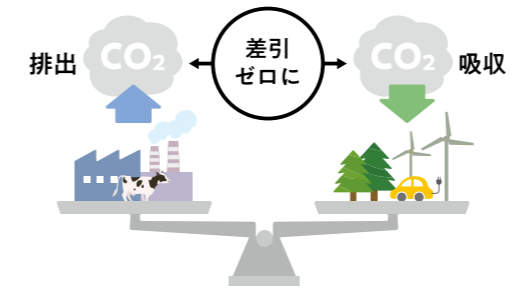


「脱炭素化」に 向け歩み速める

久慈市は、地球温暖化対策の推進と地域社会の持続的発展を目指す。脱炭素社会の実現に向けた動きを加速しており、2050年度の温室効果ガス排出量実質ゼロに向けて取り組みを進めています。2018年3月には、市内の企業が設立した「久慈地域エネルギー株式会社」に資本参加し、岩手県初の自治体新電力が誕生。自然エネルギーでつくった電気を地域で使う再生可能エネルギー（以下「再生エネ」）の地産地消を目指し事業を行っています。

2019年2月には、県北9市町村共同で、横浜市と再生エネルギーの供給や脱炭素化の推進を通じた相互の地域活力の創出を目指す「再生可能エネルギーに関する連携協定」

また、同年10月に、2050年までに市有施設の使用電力の再生エネルギー100%化を目指す「再生エネ100宣言 RE Action」協議会に参加し、12月には県北9市町村共同で、2050年の二酸化炭素排出量を実質ゼロとする目標を発表。2030年度の温室効果ガス排出量の目標を2013年度比で62%削減と定め、その実現に向けて取り組みを進めています。



2019年に県北9市町村で2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロの目標を共同発表

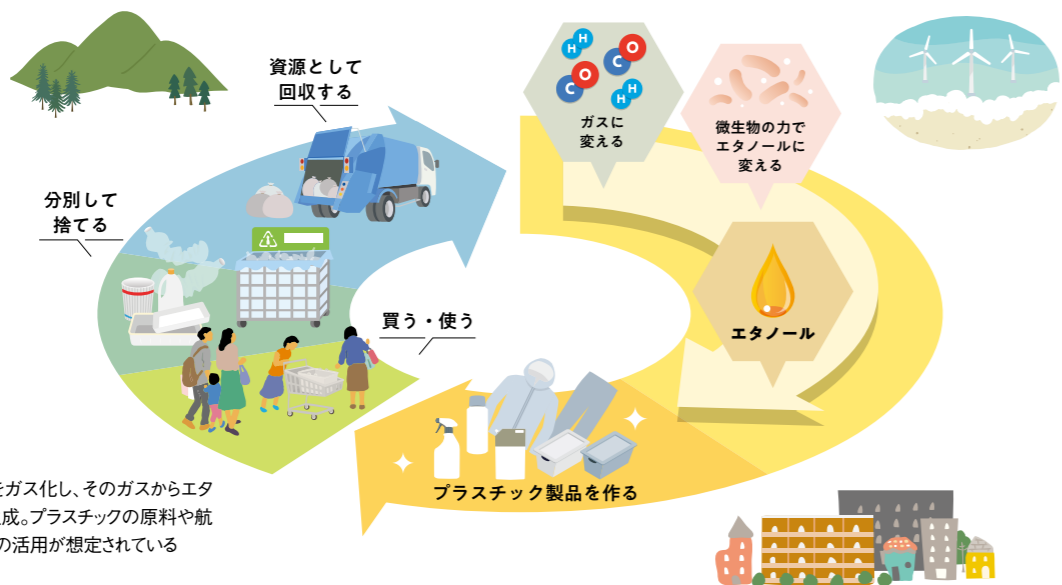


横浜市との連携協定締結市町村
2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言共同発表



CARBON ZERO

久慈市が取り組む
脱炭素社会の実現



一般ゴミをガス化し、そのガスからエタノールを生成。プラスチックの原料や航空燃料への活用が想定されている

世界的にも注目される 洋上風力発電の実現を 目指す

久慈市の再エネへの取り組みでいま最も注目されているのが洋上風力発電。一般的に陸上より安定して強い風が吹き、騒音や景観問題が比較的に少ない洋上風力発電は、世界的にも導入が広がっている注目の発電方法です。

久慈市では沖合の海域を対象に、2018年度から2020年度にかけて環境省の委託事業としてゾーニング実証事業を実施。2021年には「一定の準備段階に進んでいる区域」に整理されました。現在は海底の地形や風況などの調査を引き続き行っているほか、関係者との対話を進めています。

当海域で採用が検討されているのは、海面に浮かべた浮体の上に風車を設置して発電する「浮体式洋上風力発電」で

す。実現すれば、直径200mを超えるブレードを備えた全高300mの巨大な風車が海上に立ち並ぶことになりま

す。洋上風力発電の導入は、建設・維持により大きな地元雇用を生み出すほか、発電から得られる収入の一部は地域振興基金として地域への還元も想定されており、地域経済の発展や、地域における再エネの利用促進にも寄与すると期待されています。



ハイブリッドスパー型浮体式洋上風力発電施設「はえんかぜ」
(長崎県五島市杵島沖・撮影者：西山芳一)

実現すれば、全高約300mの巨大な風車が洋上に並ぶ



進む、広がる、深まる、 久慈市の脱炭素への 取り組み

2022年に久慈市は宮古市とともに県内の自治体で初めて、カーボンニュートラルの取り組みを先行して進めるモデル地域「脱炭素先行地域」に選定されました。山形町を対象地域とし、太陽光発電や蓄電池の導入補助、木質バイオマスを活用した熱電併給システムの導入、交通弱者支援に活用するEVバスの導入などの脱炭素施策を計画しています。

また脱炭素・環境保護など持続可能な社会の観点からも企業誘致に取り組み、一般ゴミからエタノールを抽出する

世界初の技術を持つ、積水化学工業株式会社のグループ会社である積水バイオリファイナーリー株式会社を誘致。2022年から待浜地区に建設されたプラントで、久慈管内の一般ゴミを使い実用機の10分の1の規模で実証事業が行われています。2021年6月には積水化学工業株式会社と「地方創生に関する相互連携協定」も締結しており、産業振興や脱炭素社会の実現に関する取り組みの推進、環境教育や人材育成、防災などでも連携しており、地域振興への期待も高まっています。



「脱炭素先行地域」の認定書を受け取る遠藤市長



GEO PARK

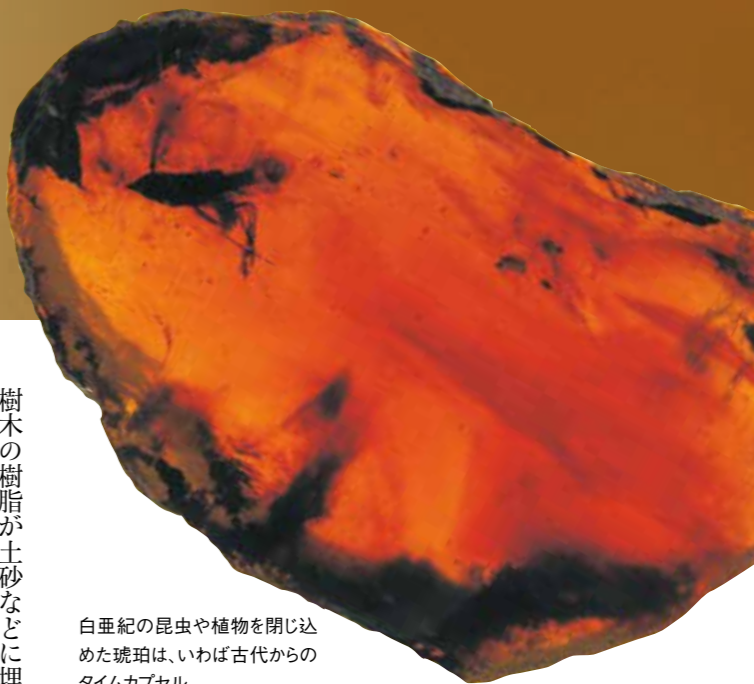
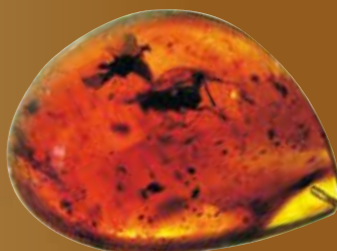
琥珀と恐竜、
ジオの眠るまち

久慈市で感じる 太古のロマン と恐竜、 琥珀と恐竜、 ジオの眠るまち



恐竜が生きていた時代の地層から採掘される琥珀や、
発見される古代生物の化石たち。
地球が積み重ねてきた悠久の時の一端を
垣間見ることのできるジオサイト。
私たちの暮らす久慈市の大地には、
たくさん「太古のロマン」が眠っています。

©小田 隆 (画像提供: 久慈琥珀博物館)



白亜紀の昆虫や植物を閉じ込めた琥珀は、いわば古代からのタイムカプセル
(画像提供: 久慈琥珀博物館)

樹木の樹脂が土砂などに埋もれ、数千万年〜数億年の時間をかけて化石化した「琥珀」。人類が利用した最も古い宝石ともいわれ、日本では旧石器時代の遺跡からも装飾品が出土しています。久慈でも古くから採掘が行われ、古墳時代には奈良地方へと運ばれていたこともわかっています。

久慈市の琥珀が採掘されるのは、約9000万年前という世界でも突出して古い時代の地層。恐竜たちが闊歩していた中世代白亜紀後期の地層です。その時代に生きていた昆虫や植物が閉じ込められた

希少な琥珀も採掘されており、学術的にも高く評価されています。

2003年には、小久慈町の河川沿いに琥珀採掘体験場が完成。久慈の地層はやわらかく、シャベルやアイスピックを使って子どもでも採掘が可能。過去には3kgにも及ぶ巨大な琥珀が見つかったことも。体験に訪れていた一般の方や学生によって肉食恐竜の化石が発掘されるという大発見も一度ならず生まれています。



小久慈町にある琥珀採掘体験場。誰でも気軽に採掘体験ができる



2018年には、発掘体験の参加者がティラノサウルス類の歯の化石を発見
(画像提供: 久慈琥珀博物館)

時の流れが生み出した 人類最古の宝石「琥珀」



GEO PARK

琥珀と恐竜、
ジオの眠るまち

ダイナミックな地球の躍動からそこに生きる人々の生活や暮らしの知恵、自然災害の記憶まで、さまざまな歴史や文化、自然の営みを今に伝える久慈の大地。青森県八戸市から宮城県気仙沼市までの沿岸を縦断する日本最大の「三陸ジオパーク」にも含まれる久慈市は、そんな地球と地域の物語を身近に感じられる場所でもあります。

待浜海岸や久慈海岸（小袖海岸）などの沿岸部は、約1億3000万年前に地下深くでマグマが冷え固まってできた花崗岩類が、大地の隆起によって地表に現れたもの。太平洋の荒波に長年さらされ侵食されてきた段丘崖や、復

久慈ジオワールドへようこそ！

雑に岩が入り組む岩礁地帯は、今ではウニやアワビが繁殖する豊かな漁場として人々のなごみを支えています。一方陸部では、海洋プレートの移動によって遠洋から運ばれたチャートや枕状溶岩、石灰岩などが観察でき、白亜紀後期の陸地付近で堆積した地層からは、琥珀や古代生物の化石が数多く発見されています。

また、青森県八戸市から福島県相馬市を結ぶ太平洋沿岸沿いに伸びる、約1000kmに及ぶ長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」のコースも整備されており、地域の人々と交流を深めながら、久慈のジオをじっくりと楽しむことができます。



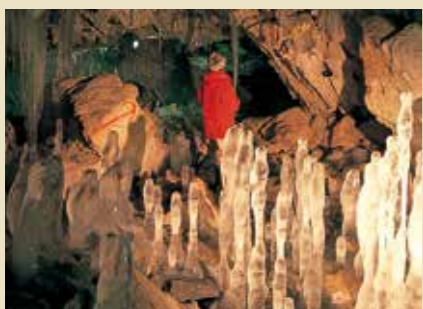
大地に刻まれた「地球時間」が実感できる！

久慈のおすすめジオサイト



久慈溪流(鏡岩)

久慈川中流域に位置する久慈溪流。そこにそびえる「鏡岩」は、南洋にあったサンゴ礁由来の石灰岩がプレートの移動で大陸に付加、地殻変動によって90度近く傾いたまま隆起し、その後河川に侵食されてきたもの。秋の見事な紅葉も人気です。



内間木洞

中生代三畳期に堆積した石灰岩が地殻変動で地上まで隆起し、その後雨や地下水の侵食によりできた、約6kmに及ぶ国内有数の巨大鍾乳洞。洞内には絶滅危惧種のコウモリや昆虫が生息し岩手県指定天然記念物となっており、普段の立ち入りは制限されています。



下戸鎖の枕状溶岩

約2億年前に遠洋の海底火山の噴火で海中に流れ出した溶岩が、海洋プレートの移動により運ばれてきたもの。球状の溶岩が折り重なった枕状の溶岩は、かつてここが海底だったことを示しています。山根町の道路沿いなどで見ることができます。



久慈海岸(小袖海岸)

マグマがゆっくり冷えてきた深成岩と、デイサイト(石英安山岩・せきえいあんざんがん)などの火山岩で形成。海食洞のあいた「つりがね洞」や、東日本大震災津波でも切れなかったというしめ縄で結ばれた「夫婦岩」などの奇岩も訪れた人の目を楽しませてくれます。

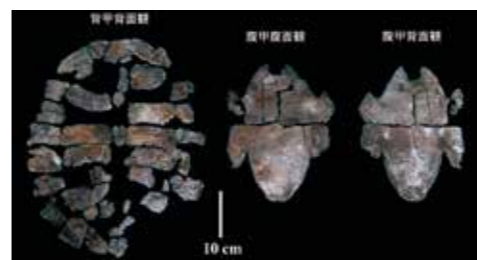


半崎の野田層群

久慈湾内前浜の北端に位置する、高さ60mほどの大断崖。約6300万年前に三陸沖で複数回噴火した火山堆積物が含まれるなど、大地の歴史を今に伝える地層を見ることができます。



琥珀や古代生物が含まれているのは、川や浅い海にたまった砂や泥が押し流され、海底に堆積した久慈層群です。2012年から本格的な発掘調査を継続して行っている早稲田大学の平山廉教授(古生物学)は、久慈の大地を「琥珀と古代生物の化石が一緒に出てくる貴重な地層」と評価しています。この地層からはこれまで、大型植物食恐竜や小型肉食恐竜の歯、カメやワニ類の骨格など約30種2600点以上の化石を発見。日本の恐竜時代の生物相を探るための貴重な資料となっています。



(画像提供:久慈琥珀博物館)



2008年、ほぼ完全な形でカメの甲羅の化石が出土。調査により新種であることがわかり「アドクス・コハク」と名付けられた ©小田 隆(画像提供:久慈琥珀博物館)



ヒポドゥス類化石(背棘)部位(画像提供:久慈琥珀博物館)

©小田 隆(画像提供:久慈琥珀博物館)



大地に眠る 白亜紀後期の恐竜たち

2021年に平山教授により「アドクス・コハク」として論文に発表されました。また、同じ地層から4種類の獣脚類の歯の化石が見つかっている国内唯一の地域であり、恐竜研究を進めるうえでも注目されています。



©小田 隆(画像提供:久慈琥珀博物館)



2012年から発掘調査を行う早稲田大学の平山廉教授



守る、受け継ぐ、 ここから始まる 新時代の風土記

太古の昔からこの地で脈々と続いてきた人々の暮らし。
喜びも悲しみも共有しながら、
新しい時代へと向けてさらに発展していこうとする久慈市。
新時代の風土記の1ページはここから始まります。

広がる

人を、ものを、
思いをつなげる
「命の道」



2023年4月19日にオープン。道の駅「いわて北三陸」

東日本大震災からの早期復興に向けたプロジェクトとして整備が進められてきた、復興道路と復興支援道路。2021年12月18日、青森県八戸市と宮城県仙台市を結ぶ総延長35.9kmの復興道路「三陸沿岸道路」が全線開通の日を迎えました。三陸沿岸地域を結ぶ縦軸となる三陸沿岸道路、内陸と沿岸地域を結ぶ横軸の復興支援道路の完成により、さまざまな分野への波及効果が期待されています。



三陸沿岸道路全線開通の様子(2021年12月18日)

三陸沿岸道路新設にあたり久慈市が最も重視し、近隣市町村とともに強く要望したのが、万が一の災害時にもしつかり機能する「命の道」であることでした。東日本大震災時、国道45号の一部区間が津波により浸水し、内陸部からの救援活動が滞った経験を踏まえ、三陸沿岸道路のルートは震災時の津波浸水区域を95%回避、残りの5%も高さのある橋梁で通過するように設定されています。同時に、内陸部も含めた三次救急医療施設へのアクセス性も向上。救急活動の迅速化もかなえられました。

また、久慈―八戸間を約40分、久慈―宮古間を約1時間で結ぶなど、都市間の所要時間も大幅に短縮。雪の影響を受けにくい道路であることも含め、物流の効率化や観光の振興、交流人口の拡大にも寄与するものとして、地域全体の振興や活性化に大きな期待が寄せられています。

三陸沿岸道路の整備とともに沿線各地で進められているのが、道の駅を活用した地域振興です。久慈市では、洋野町、野田村、普代村とともに、三陸沿岸道路久慈北インターチェンジを降りてすぐの場所に新たな道の駅「いわて北三陸」を整備。北三陸エリアのゲートウェイ(玄関口)として、観光の振興や交流人口の拡大が期待されています。

道の駅「いわて北三陸」は、物販施設や飲食施設、情報提供施設、多目的ホールなどを完備。子育て支援にも力を入れており、屋内大型遊具を備えたキッズスペースのほか、休憩スペースには24時間利用できるおむつ交換台や授乳室も整備。ま

津波浸水エリアを回避しルート設定された三陸沿岸道路



ここから始まる
新時代の風土記

た4市町村がそれぞれの情報を発信する屋台風のブースも備え、北三陸エリアのPRに活用していく予定です。

さらに道の駅のイベント広場内には、いわて応援ポ

ケモン「イシツブテ」をはじめとする「いわタイプ」のポケモンをモチーフにした遊具を設置した「イシツブテ公園」も開園。県内外のポケモンファンからも注目を集めています。

北三陸の新たな交流拠点 道の駅「いわて北三陸」



久慈湾で行われているギンザケ養殖

水産業におけるトピックスといえば、久慈湾におけるギンザケの養殖です。海洋環境の変化により漁獲量が低迷している主力魚種のスルメイカや秋鮭の不漁を補い、水産業の新たな柱となることを目指して、2019年から養殖試験を開始。愛称を「久慈育ち琥珀サーモン」として本格的に事業化され、2022年には約672tのギンザケが水揚げされました。

そして、久慈市の特産として忘れてならないのが「山形村短角牛」。5〜10月にかけて、通称「エリート牧場」

と呼ばれる市営の基幹牧場に母子で放牧。広大な草原でストレスなくのびのびと育ち、秋には里においてくる「夏山冬里」方式で育つ山形村短角牛は、かめばかむほど肉本来のおいしさが感じられると全国から高い評価を得ています。

久慈市内の小中学校では年に一度、ほうれんそう、原木しいたけ、鮭、短角牛の各食材で「地産地消ふれあい給食」を実施。生産者の話を聞きながら地元の特産を味わうことで、地域の産業への理解を深めています。

漁業の新たな柱として取り組むギンザケ養殖



山間で露地栽培される原木しいたけ



ここから始まる
新時代の風土記



寒さに耐え甘さを増す寒じめほうれんそう

ブランド力を増すほうれんそうとしいたけ

海と山、自然の恩恵を受ける久慈市では、その気候風土を生かしながら地域の産業を育ててきました。

久慈市を代表する農産物といえば、ほうれんそうと菌床しいたけ。4月から秋にかけてハウス栽培される「雨よけほうれんそう」に加え、近年では冬場の寒さにあてて糖度を高めた「寒じめほうれんそう」が人気です。目の健康維持に有効であるルテインを豊富に含み、機能性表示も取得し他のほうれんそうとの差別化を図っています。菌床しいたけは、今、右肩上りに生産量を増やしている期待の特

産品。おがくずや米ぬかなどを混ぜた菌床ブロックを使ってしいたけを栽培しています。

菌床しいたけに対し、丸太に種コマを打ち込み、木立の中に伏せ込んで露地栽培するのが原木しいたけ。1年半〜2年かけてゆっくり育つ原木しいたけは、肉厚で濃厚な味わいの特徴です。菌床しいたけへの切り替えや高齢化などにより生産者は減少していますが、森林とともに生きてきた久慈市の大切な産業として、次世代への技術継承に努めています。



牧場で草を食む山形村短角牛

久慈市が誇る特産品



山形村短角牛

春から秋にかけて放牧される牧場は夏でも冷涼。牛たちは広大な草原で草を食べてすくすくと育ちます。エサは国産100%。安全でおいしい赤身肉は全国区で人気です。



久慈育ち琥珀サーモン (養殖ギンザケ)

久慈港から約3kmの沖合にイクスを設置。他の産地より海水温が低いため、鮮魚の需要が高まる7月下旬〜8月初めの出荷が可能です。また差別化を図るため、特産の山ぶどうの皮や種を配合した餌料を与え、ご当地サーモンとして他産地との差別化にも取り組んでいます。



木炭

主に山形町で生産。生産者は減少傾向にありますが、昨今のアウトドアブームに合わせ炭と食材をセットにして売り込むなど、時代に合わせた販売方法を模索。市も付帯設備に補助金を出すなど技術の継承に取り組んでいます。



原木しいたけ

ナラやクヌギなど広葉樹の丸太をホダ木とし、菌を植え付け山間で露地栽培。肉厚でうまみが濃く、乾燥させたものは全国乾椎茸品評会でも入賞するなど品質の高さが自慢です。



菌床しいたけ

おがくずや米ぬかのできた菌床ブロックに菌を植え付け、冷暖房完備の特殊なハウスで栽培。気候に左右されず、安定した収量が得られます。



寒じめほうれんそう

11月下旬〜2月頃にかけて、久慈の寒風にさらされながら100〜120日をかけてゆっくり生育。寒さに耐えるため葉っぱは縮み、糖分やビタミン、ミネラルをたっぷり蓄え、糖度8度以上のものだけが出荷されます。



映画「永遠の1分。」の製作風景。久慈地下水族科学館もぐらんぴあを貸し切って撮影が行われた



山根町を中心にロケが行われた「星屑の町」。「あまちゃん」でも主演を務めたのんさんがヒロインを演じた

「ロケツーリズム」で 地域の魅力を発信



各種ロケーションサービスやロケ地情報などをまとめたマップ

2013年に放送されたNHK連続テレビ小説「あまちゃん」は、大人気を博し、ロケ地となった久慈市には、多くの人が訪れました。「あまちゃん」で得られた地域の高揚感や知名度を最大限に活用し、ロケ地として新たな映像作品を誘致すること、また地域のファンを増やし、継続的に地域の魅力を発信していくことを目的に、久慈市では2016年から「ロケツーリズム」に取り組んでいます。

「ロケツーリズム」とは、ドラマ等のロケ地を訪ね、風景と食を満喫し、人々のおもてなしに触れ、その地域のファンになることで、久慈版ロケツーリズムでは、ロケの受け入れや情報発信などの取り組みのほか、既存の観光資源の磨き上げやおもてなし力の向上など、受け入れる側のブラッシュアップも行っています。

これまで、映像制作者を久慈市に招いてのロケハンツアーや、受け入れ態勢の整備、製作者へのPRを実施。これらの取り組みが着実に成果を上げています。

バラエティや旅番組などのテレビ番組のほか、「星屑の町」（杉山泰一監督/2020年公開）、「永遠の1分。」（曾根剛監督/2022年公開）の2本の映画作品の誘致も市の働きかけによって実現。「星屑の町」では山根

地区の桂の水車広場など市内8カ所で、「永遠の1分。」ではアンバーホールやもぐらんぴあ、市内の飲食店など19カ所でロケが行われました。撮影終了後にはロケ地に看板を設置したり、シーン写真をマップに掲載するなどして、ロケ地となった場所や施設の周知にもつなげています。

今後はさらに市民と一緒に、誘致を推進していく予定です。情報発信効果の高い映像作品を通して、地域のPRと活性化に取り組んでいきます。



撮影に使う豆腐田楽やもち田楽を、地元のお母さんたちが作って提供



たくさんの地域住民がエキストラとして参加

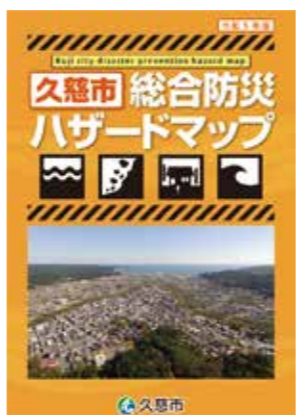
このまちに住む人が一生涯にわたり
元気で幸せに暮らしていくために、
久慈市では、防災、福祉、子育て支援などの
側面からもさまざまな環境整備を推進。
いつまでも住み続けたいまちを目指しています。

住み続けたい まちであるために 誰もが安心して 暮らせる久慈市へ



SAFE LIVING

誰もが安心して
暮らせる久慈市へ



最新情報を反映し、2023年に刷新された久慈市総合防災ハザードマップ

災害に強いまちへ 湾口防波堤、 雨水ポンプ場を整備

久慈市ではさまざまな自然災害に対応するため、各種防災設備の強化を進めています。

その一つが「久慈港湾口防波堤」の整備です。1990年から久慈湾で整備を進めているもので、2022年度末現在約2900mが完成。2033年度までに総延長3800mの完成を目指しています。

この防波堤設置の第一の目的は、津波から住民の命や財産を守ることに。東日本大震災の際も、建設途中であったものの津波の威力を軽減できたことが報告されています。加えて、外洋の影響を受けにくい静穏域（波が穏やかなエリア）ができることにより、荷役稼働率の向上や船舶の避難泊地の確保、養殖事業やレジャーへ

の活用など、新たな経済活動を誘発することも期待されています。

また、2016年、2019年に相次いで発生した台風による市街地の浸水被害を受け、低地にたまった水を強制的に排水する雨水ポンプ場を、新井田・十八日町・田高地区に整備。2023年度中の完成を目指し、内水氾濫防止への対策も進めています。



整備中の新井田ポンプ場。25mプール(360m)の水を約1分で排水

東日本大震災津波、台風による浸水と、大自然の脅威を目の当たりにしてきた久慈市。これらの出来事を教訓とし、ハード面の防災対策とともに進めているのが自主防災組織の結成です。

自主防災組織とは、町内会や自治会、住民自らが自主的・組織的に防災活動を行う組織のこと。避難の呼びかけや避難訓練の実施のほか、災害の恐れがあるときには、高齢者や体の不自由な人など避難が困難な方を地域ぐるみでサポートすることが期待されています。久慈市では市の職員が各地域に出向いて説明するなどして結成を後押し。

2022年度末現在42組織が結成されており、今後は市全域での結成を目指しています。

また、日本海溝・千島海溝地震津波などによる新たな被害想定を発表を受け、久慈市総合防災ハザードマップや避難場所などを見直し、ハザードマップを全戸に配布し、日頃からの備えを呼びかけています。

一人ひとりの防災意識を高め、地域住民が支え合うことで一人でも多くの命が救えるよう、「公助」に加えて「自助」「共助」の気運を官民が一体となり高めていくことが求められています。

自主防災組織の 結成を後押し

「自助・共助」で救う命



右:2022年度から防災士の養成もスタート。5年で250名の防災士が誕生することを目指している
左:避難訓練の様子





SAFE LIVING

誰もが安心して暮らせる久慈市へ

妊娠から事業を実施。各種健診や相談など子育てをサポート



「元気の泉」には子育て、心身の健康、高齢者の生活に関する相談窓口を併設。ワンストップでさまざまな相談が可能



悩んでいる人に気づき声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ見守りを行う「ゲートキーパー」の養成にも力を入れている



誰もが住み慣れた地域で自分らしい生活を

久慈市に暮らす誰もが心身ともに健やかに生活していけるよう、久慈市では旭町の「元気の泉」内に設置された「子育て世代包括支援センター」「保健推進課」「地域包括支援センター」で、各年代に対しまざまな取り組みを行っています。高齢者には介護予防事業として、市内の各地区で週に1回「いきいき百歳体操」「かみかみ百歳体操」を実施。継続することで機能維持改善も見られ、さらには住民同士の交流にもつながるなど成果を上げています。また、認知症に対する理解を深め、当事者やその家族をサポートしていくことを目的に、市内の小中学校や企業、市民などを対象に「認知症サポーター養成講座」を実施。VR教材を活用した認知症体験を実施するなど、誰も



が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けていくための支援を継続しています。さらに「いのちを支える久慈市自殺対策計画」を策定し、関係機関やボランティア団体とも連携しながら自殺対策の取り組みも行っていきます。「ゲートキーパー養成研修」や、中学・高校などでのこころの健康教育、胃がん検診・住民健診の際に行う「うつスクリーニング」などを通して自殺対策に取り組んでいます。



「いきいき百歳体操」には現在72団体881名が参加(2022年度)



2022年度には21回開催された「認知症サポーター養成講座」。小中学校では寸劇を交えるなど工夫して実施

久慈市の保健・医療・福祉に関わる機関が集約する「元気の泉」。施設内には、久慈市の子育て世代包括支援センター、保健推進課、地域包括支援センターがある



市独自の支援策も子育てしやすいまちを目指して

子育て世帯については、国が行っている「複数の子どもが保育施設を利用している場合の多子軽減」「世帯の住民税所得割合算額に応じた多子軽減」の保育料軽減策に加え、市独自の軽減策として「保護者が扶養する満18歳までの子どもがいる場合は第3子以降は無料」「年度途中で3歳になった場合は翌月から3歳児とみなして満3歳児の利用料を適用」としているほか、2023年度からは新たな保育料軽減策も導入される予定です。

また「乳児家庭全戸訪問」として、生後4カ月未満の乳児がいる家庭を保健師や看護師が訪問。育児相談や乳幼児健康診査等の案内、育児情報の提供を行うほか、お母さんの孤立化防止にも努めています。2020年に子育て世代包括支援センターが「元気の泉」内に設置され、子育てに関する部署を集約。妊娠から子育て期まで切れ目のない相談や支援が受けられるようになりました。高齢者の地域での暮らしをサポートする地域包括支援センターと合わせ、生涯にわたる支援や相談をワンストップで受けられることも久慈市の強みです。

久慈の働き人 1

短角牛を学ぶために久慈に

地域おこし協力隊 2022年8月～ 小野沢 りん さん [長野県出身]

県立農業大学校を卒業後県内の畜産農家に就職しましたが、ずっと興味があった短角牛について、もっと知りたいと思い地域おこし協力隊に応募しました。2022年から久慈で暮らしています。現在は短角考房・北風土(久慈市山形町)で精肉加工技術を学んでいるほか、肥育農家で餌やりなどのお手伝いをしています。平庭闘牛大会では勢子にも初挑戦。まだ少し怖いですが、先輩方のようにかっこいい姿をお見せできるようになればと思っています。

短角牛は、その愛らしい表情も、お肉のおいしさも大好き。惚れ込んでいます。将来は、短角牛の肥育から肉の加工・販売までを一貫して手掛ける会社を起業できればと考えていて、残りの任期でもっと多くのことを学び、人脈を広げたいと思っています。



久慈をフィールドに 夢をかなえよう!

久慈市では主に中学生を対象としたキャリア教育や、U・I・Jターンのサポートする「K(UJI)ターン事業」などを通じて、「久慈で働きたい」と思う人を増やす取り組みを進めています。

市内全ての中学2年生を対象としたキャリア教育事業では、生徒が一堂に会し市内の企業約30社の話を聞く「キャリアオーケストラ(職業講演会)」、その後の市内一斉の職場体験「社会体験WEEK」などを通して、地域の多様な産業や仕事を知り、働くことを考える機会を創出しています。また、大卒者の採用を希

望する企業にコンサルタントを派遣し企業の魅力アップを後押しするほか、Kターンしてきた人や採用した企業への奨励金の支給や、起業家への補助事業なども行っています。

また2015年度からは「地域おこし協力隊」の受け入れも開始。2021年にそれまでの「ミッション提示型」のほか「企画提案型」を加えたことでさらにマッチング度の高い人材の採用につながっており、地域の皆さんとともに産業を生み出していくことが期待されています。

久慈の「働き人」に聞きました!

久慈の働き人 2

協力隊を経て地元で起業

久慈市移住コーディネーター 藤織 ジュン さん [東京都出身]



前職で舞台俳優をしていた私は、たまたま巡業で訪れた久慈で「北限の海女PR隊」の募集を見て参加しました。3か月の活動を経て、もっと久慈市のことが知りたいと思い、2015年に地域おこし協力隊として移住してきました。卒業後は市の支援制度を利用して会社を起業。現在は、市の委託を受け移住コーディネーターとして活動しているほか、小袖海岸やもぐらんびあでの海女の実演、県内外での観光PRやイベントでのMC、商品開発なども行っています。

SNSでの発信を通して久慈を知り、訪れてくれる方がいることを何よりのやりがいと感じています。今後は他の地域とも連携しながら、地方を盛り上げていく仕事をしていきたいです。



アンバーホールに市内の中学2年生が一堂に会し、地元企業の話聞く「キャリアオーケストラ」



中学校2年生が市内の事業所で職場体験



新規採用を目指す企業が集まり情報交換する情報共有会



太鼓やお囃子、神輿の担ぎ手たちの威勢のいい掛け声に市内が包まれる

久慈秋まつり

歴史、文化、地域...
もっともっと久慈を知ろう ②



山車はすべて、市内の山車組による手作り。準備から本番に至るまで、秋まつりは地域の一体感を高める役割も担っている

毎年9月の第3木曜～日曜に行われる「久慈秋まつり」。岩手県北最大規模のお祭り、前夜祭を含む4日間で県内外から約10万人が訪れます。もともとは大神宮、巽山稲荷神社、秋葉神社（現在は大神宮に合祀）の三社に奉納する祭礼で、五穀豊穡や除災招福を祈願して行われていました。

金曜の「お通り」、日曜の「お還り」には、市内の目抜き通りを神輿と山車が大パレード。山車は市内の山車組による手作り、歴史上の物語をモチーフにしています。中日（土曜）には郷土芸能パレードが行われ、こちらも人気。子どもから大人まで誰もが、久慈市民としての一体感を感じられる行事でもあります。



中日には子どもから大人まで参加するにぎやかな郷土芸能パレードも行われる



最大12mまでせり上がる山車は勇壮で豪華絢爛



夜には山車や神輿もライトアップ。昼とはまた違う幻想的な美しさ



青森県鯉ヶ沢町にある「光信公の館（種里城跡）」前庭に建てられた大浦光信の銅像

歴史探訪

歴史、文化、地域...
もっともっと久慈を知ろう ①

大川目町にある「久慈城跡」。標高約80mの丘陵を利用して築かれた山城で、眼下には久慈川沿いの平野を見下ろす



【久慈城跡】

久慈市の歴史を今に伝えるものといえば、大川目町にある「久慈城跡」。久慈城は久慈川沿いに開けた平野を一望する丘陵に建てられた山城で、南部氏の一族であった久慈信実が居城した後、久慈氏代々が居城しました。今でも主郭や濠跡、馬場跡などが良好な状態で残り、中世山城の条件を備えた貴重な史跡であるとして、2022年4月には岩手県の史跡に指定されました。

【大浦光信】

戦国時代の武将、大浦光信は久慈の出身。鯉ヶ沢町の種里城に居城して勢力を拡大し、光信から5代目の大浦為信（後の津軽為信）が初代津軽藩主となったことから、光信は津軽藩始祖と敬われています。2020年10月には、光信と津軽に関わりのある岩手・青森・秋田の5市町が「歴史文化で結ぶ交流宣言」を締結。光信がつなぐ歴史の縁を後世に伝えながら、現代における交流の輪も広がっています。



2022年10月に行われた「久慈地方産業まつり」では、光信ゆかりの連携都市が特産品などを販売



黒石市、弘前市、鯉ヶ沢町、久慈市、横手市の5市町により「歴史文化で結ぶ交流宣言」を締結



久慈城跡は地域の皆さんによって整備され、自由に見学することができる。城跡の散策が楽しめ、多くの歴史ファンが訪れている



江戸時代から山形町に受け継がれてきたハレの日を彩る伝統食。地元でとれたゴボウやニンジン、焼き豆腐、しめじなどと一緒には、クルミと黒砂糖の入った小さな小麦団子を煮込んだ具だくさんの汁物です。2021年には文化庁の「100年フード」に認定。「まめぶフェスタ」やモニターツアーなどを通して、保護と継承に取り組んでいます。

モニターツアーでは、外国人にもまめぶの魅力をアピール



歴史、文化、地域...
もつともつと久慈を知ろう④

【まめぶ】



平庭高原の白樺林は、群生面積・本数ともに日本一。かつて放牧地だった場所に31万本を超える白樺が群生しています。白い木立が美しい白樺林ですが、寿命を迎えた木も多く、実は存続の危機。2014年からはボランティアによる倒木の撤去や植樹活動が行われており、2021年から専門機関による本格的な調査も開始。地域の宝である白樺林再生の気運が高まっています。

2022年には280名を超えるボランティアが参加し、白樺やツツジの植樹、草刈りなどが行われた



【白樺林】

山形町エリア



平庭高原で年に4回開催される、東北唯一の闘牛大会。かつて沿岸から内陸に塩を運んでいた牛たちの隊列の先頭を決める角の突き合わせが起源のため、勝負を付けずに引き分けて終わらせるのが特徴です。とはいえ、最大1tを超える牛たちがぶつかり合う姿は迫力満点。新潟や沖縄で行われている闘牛への牛の供給地としての役割も担っています。

牛の手綱を持ち回りではやし立てる人は「勢子(せこ)」と呼ばれる



【平庭闘牛大会】



三船十段が創案した技「隈落し」

歴史、文化、地域...
もつともつと久慈を知ろう③

柔道のまち 久慈

柔道の発展に貢献し「柔道の神様」とも称される三船久蔵十段を輩出した久慈市では、誰もが気軽にスポーツに親しみ、健康増進や体力づくりができる環境の整備に取り組んでいます。

また、三船十段生誕の地として「柔道のまち久慈」を県内外に発信していくため、各種柔道大会や柔道教室などを開催。なかでも「三船十段杯争奪柔道大会」は半世紀以上続く東北規模の大会で、小学生から一般選手まで幅広い年代の選手が多数参加しています。ほかに、久慈市の指定強化選手の遠征補助も実施。競技力の向上や競技人口の拡大とともに、柔道に対する市民の理解や認知度の向上にもつながっています。



三船十段記念館柔道場で汗を流す子どもたち



市内の中学生や指導者などが岩手県柔道連盟指定選手から指導を受ける柔道強化錬成会

三船十段に関する貴重な資料や映像などを見ることができる「三船十段記念館」

久慈の子どもたちは柔道教室などを通して幼い頃から柔道に親しむ。ここから未来の金メダリストが生まれるかも

生徒向け「体験教育旅行」プログラム（一部）



農林漁家民泊体験

数人のグループに分かれて民家に宿泊。田舎暮らしや地元文化、久慈の人々の温かなおもてなしの心を肌で感じられると好評です。



漁業体験

サツパ船（小型漁船）に乗り込み刺網漁を体験。雄大な太平洋や三陸の景色を眺めながら、海の達人である地元漁師からプロの技を学びます。



魚さばき体験

三陸産の魚を自身の手でさばきます。インストラクターは地元のおかあさん。食の大切さを生徒たちに伝えます。



内間木洞探検

総延長6300mに及び国内有数の鍾乳洞を探検。さまざまな形の鍾乳石や、「千畳敷」と呼ばれる大空間など、自然の驚異を目にすることができます。

ラインクライミング

専用のロープとハーネス（安全ベルト）を使った木登り体験。普段見ることのない視点から眺める森の風景は格別です。



シャワークライミング

渓流の中を流れて逆らいながら上流へ。途中には深みや小さな滝などもあり、励まし合いながら進むことで協力することの大切さを学びます。

久慈の魅力をとことん満喫！
 こころに残る！
 くじ体験

多彩な自然と四季折々の行事、温かなおもてなしが訪れる人を
 出迎えてくれる久慈市。
 きつと忘れられない思い出になる、
 久慈での体験、観光スポットを紹介します。

大人向け「久慈セラピー」プログラム



山根森林ヨガ・温泉入浴体験

熊野神社の森で、ケヤキの巨樹に見守られながらヨガ体験。東北随一の強アルカリ性温泉「新山根温泉べっぴんの湯」では効果的な浴法も学びます。



侍浜タラソセラピーウォーク

太平洋の潮風を感じながら、アカマツ林など起伏のあるコースをウォーキング。タラソセラピーと森林浴が一度に楽しめます。



開運!十二支巡りウォーク

健康と開運を祈願しながら十二支を巡るユニークなウォーキング。途中には地形を利用したストレッチや脳活性ゲームも。



平庭 白樺美林ウォーク

木漏れ日の中、平庭高原の白樺林とブナ林をウォーキング。白樺樹液のハンドマッサージやハンモック体験でリフレッシュできます。

子どもから大人まで 久慈で楽しむ 体験学習

海と山に囲まれた久慈市。自然の恩恵を受けながら地域のなりわいを育て、久慈ならではの文化を育んできました。そんな地域の魅力を楽しみながら学んでほしいと、久慈市では多彩な体験教育旅行プログラムを展開しています。いずれのプログラムも、ありのままの久慈の自然や文化に触れられる、地域資源を最大限に生かした内容。仙台を中心に関東などからの学校も受け入れており、「助け合いの精神が学べた」「協調性が育まれた」「自然と向き合い大きな気づきを得た」など高い評価を受けています。

また大人向けのヘルスツーリズムの開発にも取り組んでいます。



※Protein(タンパク質)、Fat(脂肪)、Carbohydrate(炭水化物)の頭文字をとったエネルギー源となる三大要素。PFCバランスは健康に大きく影響を及ぼします

いて、タラソセラピーや森林浴、温泉浴などを取り入れた「久慈セラピー」が好評。「久慈健康やか笑顔の食卓プロジェクト」として、市内の飲食店では地元産食材にこだわりカロリーや塩分量、※PFCバランスに配慮した健康食メニューを味わうこともできます（要予約）。

久慈秋まつり

9月の第3木曜～日曜に行われる岩手県北地域最大のおまつり。豪華絢爛で巨大な手作り山車は高さ12mほどにまでせり上がり迫力満点です。



季節を彩る 久慈の 歳時記

平庭闘牛大会

東北で唯一の闘牛大会。初夏から秋にかけて「わかば場所」「つつじ場所」「しらかば場所」「もみじ場所」の4場所を開催します。迫力あふれる若牛たちの勇姿を見ることが出来ます。



久慈地下水族科学館もぐらんぴあ

東日本大震災を生き抜いた「かめ吉」が三陸の魚たちと泳ぐトンネル水槽や、海女の素潜り実演が見られる海水槽が人気。4階には施設の応援団長「さかなクン」のコーナーも。

久慈市おすすめ観光スポット

ガタゴンまつり

山形町の畑で見つかった未確認生物「ガタゴン」の名を冠した、山形町の商店街で例年8月中旬に開催される夏のおまつり。流し踊りや山車運行、盆踊りなどが行われます。



ヤマセあきんど祭り

旧暦の七夕に合わせて、8月上旬に市の中心部で開催されるイベント。吹き流しなどの七夕飾りで彩られた会場では、郷土芸能やグルメ屋台が楽しめます。



平庭高原スキー場まつり

2月の第2土曜に行われる冬のビッグイベント。まめぶ汁をはじめとした郷土料理の屋台が出店するほか観客参加型のイベントも。まつりの最後には大輪の花火が冬の夜空を彩ります。



平庭高原つつじまつり

レンゲツツジが見頃を迎える6月上旬頃に平庭高原で開催。朱色のツツジが咲き誇るなか、特産品の販売や各種イベントが行われます。



北限の海女フェスティバル

8月の第1日曜に小袖漁港で開催。北限の海女の素潜り実演や海産物の販売などが行われ、多くの人でにぎわいます。



久慈の市日

毎月3と8のつく日に、「市日通り」と呼ばれる市の中心部に旬の野菜や海産物などを売る店舗が並びます。交通や文化の要路として栄えた久慈の歴史を今に伝えます。



久慈市 情報交流センター YOMUNOSU

観光案内所と図書館がひとつになった複合施設。「あまちゃん」に関する展示スペースや地産地消カフェ、展望室などあり、市民はもちろん観光客にも広く利用されています。



小袖海女センター

海女を紹介する展示コーナーや軽食スペースを備えた小袖海岸の観光拠点。夏季には北限の海女による素潜り実演も行われます。

三船十段記念館

久慈市出身の柔道家・三船久蔵十段が行った柔道の振興や発展、国際化の偉業の顕彰を目的とした施設。三船十段の足跡や書道作品、遺品などを展示。三船十段が創案した技「隅落し(別名:空気投げ)」などの貴重な映像も見られます。柔道場も併設しており道場生が日々稽古しています。



三陸鉄道

久慈駅と大船渡市の盛駅を結ぶ三陸鉄道。久慈駅には観光案内所のほか北三陸地域のお土産が買えるショップも。駅内「三陸リアス亭」のウニ弁当は売り切れ必至の人気商品です。



山根六郷・桂の水車広場

敷地内には、今でも現役で活躍している水車や山根神楽を披露する舞台、久慈市天然記念物に指定されているケヤキの巨樹があります。



久慈琥珀博物館

国内唯一の琥珀専門博物館。ジオラマで再現した太古の森や、久慈や世界で発掘された貴重な琥珀などを展示。琥珀の採掘や琥珀玉づくりなどの体験メニューも好評です。



道の駅くじ やませ土風館

観光案内所や産直コーナー、お土産品・工芸品の販売のほか、海鮮料理が自慢のレストランや、豪華絢爛な久慈秋まつりの山車も展示されています。

久慈市 地図

KUJI CityMap

ACCESS Information for KUJI CITY

■新幹線～八戸線～バス

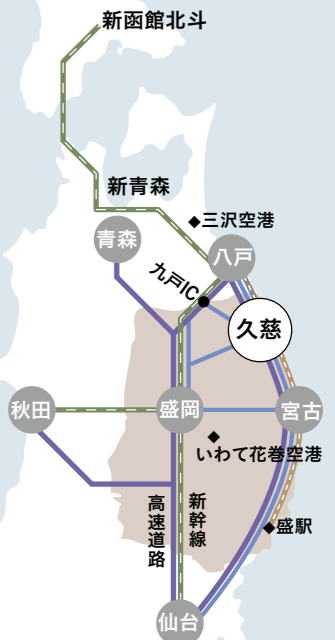
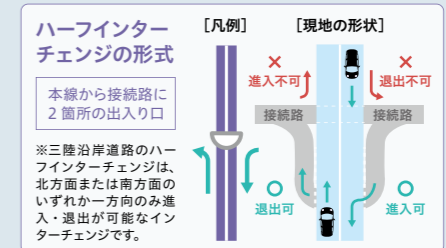
東京駅	東北新幹線	盛岡駅	東北新幹線	二戸駅	新幹線リレーバス (JRバスフラワー号)	久慈駅
	2時間10分		25分		1時間10分	
仙台駅	東北新幹線					
	40分					
秋田駅	秋田新幹線					
	1時間30分					
新函館北斗駅	北海道新幹線	新青森駅	東北新幹線	八戸駅	JR八戸線	
	60分		25分		1時間40分	

■バス・三陸鉄道

盛岡駅	JRバス(白樺号) / 岩手県北バス(こはく号)	久慈駅
	2時間45分 / 2時間15分	
東京駅	岩手県北バス(岩手きずな号)	
	10時間40分	
宮古駅	三陸鉄道リアス線	
	1時間40分	

■自動車

東北自動車道	川口JCT	東北自動車道	盛岡IC	東北・八戸自動車道	九戸IC	一般道	久慈駅
	約5時間20分			1時間20分		50分	
三陸沿岸道路	八戸是川IC	三陸沿岸道路					
		40分					
盛岡IC	宮古盛岡横断道路	宮古中央IC	三陸沿岸道路		久慈IC	一般道	
	1時間20分		1時間			5分	
花巻IC	釜石自動車道	釜石中央IC	三陸沿岸道路				
	1時間5分		1時間40分				
仙台港北IC	三陸沿岸道路	陸前高田IC	三陸沿岸道路				
	1時間30分		2時間15分				



久慈市の花鳥木



つつじ



うぐいす



しらかば

久慈市の名誉市民



故 三船久蔵十段

1883(明治16)年久慈市生まれ。仙台二中卒業後、講道館に入門。「空気投げ」(隅落し)などの技を編み出し、近代柔道の発展に貢献。1945(昭和20)年講道館十段を授けられ名人の称を受ける。1954(昭和29)年久慈市名誉市民。1961(昭和36)年文化功労者。1965(昭和40)年逝去。



故 タマシン・アレン先生

1890(明治23)年アメリカ合衆国インディアナ州フランクリン市生まれ。フランクリン大学、シカゴ大学に学び、1915(大正4)年初来日。1931(昭和6)年久慈市に移住。アレン国際短期大学の設立をはじめ教育・医療・福祉の分野で活躍。1968(昭和43)年勲四等瑞宝章、1959(昭和34)年久慈市名誉市民。1976(昭和51)年逝去。

久慈市勢要覧 2022 ダイジェスト版

編集・発行／久慈市総合政策部 〒028-8030 岩手県久慈市川崎町 1-1
TEL 0194-52-2111 FAX 0194-52-3653 <https://www.city.kuji.iwate.jp>



ホームページ



Facebook



Twitter



LINE